

令和 5 年度（2023 年度）

第 2 回熊本市生涯学習推進計画策定委員会

議事録

【開催日時】 令和 5 年（2023 年）7 月 28 日（金）15：00～17：00

【開催場所】 熊本市役所議会棟 2 階 議運・理事会室

【出席者】

■ 委員

八幡 彩子 委員長
加藤 貴司 副委員長
田川 智恵子 委員
中川 保敬 委員
林田 真 委員
萱野 晃 委員
勝谷 知美 委員
松永 裕子 委員
貴田 雄介 委員

《欠席者》

原 幸代子 委員

■ 事務局

石坂市民生活部長
《生涯学習課》
大石課長
松崎主幹
魚住社会教育主事
福田主査
平野主事

<会議内容>

- ・【議事(1)】 市民アンケートの結果について
- ・【議事(2)】 第 2 次熊本市生涯学習推進計画の前半部分（1～3 章）について
- ・【議事(3)】 取組内容の具体例について

発言者	発言要旨
	【開会】
【議事(1)】	市民アンケートの結果について 事務局説明
【議事(2)】	第2次熊本市生涯学習推進計画の前半部分（1～3章）について 事務局説明
田川委員	8ページの生涯学習のイメージ図について、地域に還元するためには、ボランティア活動、スポーツ活動、自治会の活動も生涯学習だと思うため、「社会教育による学習」の中に「市民として必要な組織的な教育活動」を入れて欲しい。
萱野委員	4ページの検証指標アについて、令和元年度から質問を変更したとあるが、変更前は市主催の講座を聞いたのか、それとも民間等の講座を聞いたのか。 また、変更後は複数回答とあり、どのような場所や形態で学習をしたことがあるかを聞いたことによって、具体的にいろいろな場所や形でという答えが出て、それを積み上げることによって変更前よりも数字が増えたという意味でもあるのか。
事務局	変更前と変更後どちらも、市主催の講座を問うものではなく、自分の学習を行ったかという問いである。 変更前は、「生涯学習をしたことがありますか」と聞いていたため、生涯学習という言葉があまり認識されておらず、学習はしているが自分がやっているのは生涯学習ではないと思われ、割合が低かったのではないかと認識している。 一方、変更後は「どのような場所や形態で学習したことがありますか」という問いで、選択肢にインターネット、図書館・博物館・美術館、公民館等での講座や教室等があり、その中のいずれかを選んだ人の割合となっている。つまり、いずれの学習もやっていないと回答した人を差し引いた値が、生涯学習をした人の割合ということになる。 このような背景を知らない方がこの部分を読んでも分からないと思うため、表現の仕方は検討する。
萱野委員	前計画がスタートした令和2年度以降の数値だけを比較すれば、分かりにくい部分が割愛されるのではないかと思います。
八幡委員	1年くらいの間に生涯学習をしたことがある者の割合というのは、熊本市に限らず、別紙3 教育振興基本計画（概要版）の3ページにも成果の指標として書いてある。 何も知らずに生涯学習をしたことがあるかを聞かれ、やっていないと答える人がいたとしても、「週末にスポーツを楽しんだ」や「ピアノの発表会に行った」など、具体的な活動を聞くことで、生涯学習の概念の中にどのようなものが含まれるのかが具体化され、数値が上がるのではないかと思います。その方が、この委員会が生涯学習と捉えようとしている具体的な活動にはより近いのではないかと思います。

発言者	発言要旨
事務局	国の方でも生涯学習をしたことがある者の割合というのがあるが、その質問が平成 30 年度調査から変わったことにより、熊本市も国と同じ質問をして割合が上がった。
加藤委員	変更前の問いについて、生涯学習というのを公民館等の施設でやっている講座だけだと捉えると、基準値の 28.6%くらいになるのではないかと思う。そのため、生涯学習の例を具体的に挙げていたらもう少し多くなっていたのではないかと思う。また、変更後は複数回答ということで数値が上がったと自分なりに解釈した。そのため、アンケートを取るときには設問も大事だと感じた。
松永委員	5 ページの②自己学習に関するアンケート調査について、「市民の約 60%が」や「約 80%の市民が」という標記になっているが、1,189 件の回答結果でそのように標記すると良くないのではないか。「回答された結果を見ると」等、言い方を変えた方が良いと思う。
八幡委員	「回答者の 80%が」等の標記にする、もしくは「アンケートによれば」等の但し書きが必要ではないかという提案だと思う。
萱野委員	3 ページの上の方に書いてある「それぞれで学習していく」という部分の「それぞれ」が少し理解しにくい。2 つの変化（社会情勢の変化と人々が求める価値観の変化）に学習というのがどのようにつながるのかを聞きたい。 （3）熊本市の動向で総合計画のことが書いてあるが、前計画終了年度という標記について、時点の捉え方（今の時点と、計画が完成した時点の捉え方）の整理がどのようなになっているのかを聞きたい。
事務局	求められる学習が多岐に渡っているため、学習者が必要としているものを自分で見つけて学習していく社会になっていくという意味だが、表現を再度検討する。 時点の捉え方についてはもう一度整理をして、計画が完成した時点で分かりやすい表現に改めたいと思う。
加藤委員	6 ページの（4）今後の方向性について、「民間主催の講座情報を確認し、市としては民間にはない講座等を開催することで、市民が多く学習を選択できるようにします。」とあるが、市と民間が隔離しているように捉えられる。 民間の取組は市の中心街に偏っていると思うため、民間がやっていることでも市がやっても良いのではないかと思う。そこで、「民間との連携を図りながら、多種多様な講座等の開催に努め、市民が多く学習を選択できるようにします。」等の言い方にしてはどうか。 市は、民間の良いところも取り入れていく方が、市民にとっては選択肢が広がると思う。
事務局	この部分は、民間事業者と情報共有し、お互いに協力しながらやっていきたいという趣旨であったが、委員の皆様のご意見を踏まえて検討する。

発言者	発言要旨
林田委員	民間にはないというよりも、民間ではやりにくい講座は確かにある。どうしても民間事業者としては、経済的な意味合いを持つため、人が集まりやすい講座や、お金を取っても大丈夫な講座を行うことになる。福祉やボランティア、手話などの講座はお金を取りにくく、手を出すのをためらってしまう。そのため、民間がやりにくい講座を公民館等でカバーしてもらいたい。 また、民間は人が集まりやすい場所でしか開催しないため、地域的な遍在はどうしてもあると思う。
田川委員	6 ページの (4) 今後の方向性について、「民間主催の講座情報を確認し、市としては民間にはない講座等を開催することで」とあるが、生涯学習＝座学というイメージを壊すためには、ここで講座という言葉をも 2 つつなげない方が良いと思う。そのため、別の言葉にした方が良いのではないか。
事務局	「学び」などの言葉に改める検討をする。
勝谷委員	生涯学習の場を限りなく提供していくことがこの計画の基本であると考えたときに、民間でやっているかどうかではなく、連携によって提供できるものの可能性が広がるということを書く方が良いのではないか。 私が所属している団体でも、講座をやろうと考えたときに様々な問題が出てくるが、公民館等と連携することで解決する問題もあると思う。また、民間がステップアップの講座をする際の前段部分を公民館等でやってもらうなど、いろいろな有機的なつながりによって学習の場を提供することができるというような書き方の方が良いと思う。
貴田委員	5 ページの (3) 課題と 6 ページの (4) 今後の方向性が対応しているとより良いと思った。例えば、課題の 4 点目「広報と魅力ある講座・イベントの企画が必要」に対しては、「広報課と連携をして積極的に講座情報を PR していく」等を今後の方向性に書いてはどうか。 また、アンケートに関しても、アンケート結果を踏まえているということをアピールするのであれば、「多様な講座の希望が挙がってきている中で、市民の声に応えた講座の企画に具体的に取り組んでいく」等を書き、1 つでもそういった講座を新しく実施できると、アンケートが反映されていることが伝わるのではないかとと思う。
中川委員	計画は後ろから考えていけないといけない。そのため、アンケート結果や現計画だけで説明がつかない場合は、他のデータを持ってきて後ろにつなげたり、逆に後ろから前に何が必要なのかということを繰り返し考えていくべきである。 抽象的なことばかりで、具体論が出てこないのが気になる。地域のつながりという部分で言うと、講座をやれば良いという訳ではない。地域づくりには、良い仕事がある、良い自然風土がある、良い状況・環境、文化スポーツがある、学びの場がある、仲間がいる、良い行政、良い民間というものがあって、行政はそれをどうつないでどこに持っていくかが重要になる。

発言者	発言要旨
	点でやっているものを線で結び、その後、どういうものが地域づくりに生かされているかという想定をしておかないと、うまくつながっていかないのではないかと思う。 スポーツで言えば、校区の運動会や市民フェスタがつながって上がっていくことで、健康づくりや生きがいづくりを作っている。スポーツも生涯学習も狙う方向は同じだと思うため、基本理念の下まで書いた方が良い。 学びをすることだけが生涯学習ではなく、それを生かしていかに地域の幸福度を高めていくかが大事である。個人の幸福度についてはよく分かるが、地域の幸福度の考え方がまだ欠けていると思う。 ゴールがどこかが見えてこない。スポーツで言えば、健康や勝つことなど明確なゴールがあり、そこを目指していくという形がある。生涯学習もそのようなゴールを設定した方が良いと思う。学びと活動の循環の結果をもう少し具体的に書いた方が分かりやすいと思う。
八幡委員	生涯学習というのは、時間軸でいろいろな学びの場をつなぐという理念ではないかと思う。先ほど地域という話もあったが、空間軸でいろいろな学びの場をつなぐという発想もあるのではないかと思った。また、それらは重なり合っているところもあると思う。限られた期間の中でそうした方法論にどこまでアプローチできるかというのはなかなか難しいことだと思うが、引き続き意見をいただきたい。
事務局	中川委員の発言について、第4章で具体的な取組を出していくが、それとは別のところで具体的なことについて表現をした方が良いということか。
中川委員	生涯学習の姿と基本理念というところできちんと説明した後に、具体的な事業が出てくるとよりつながってくると思う。基本理念と具体的な事業のつながりのところにもう少し説明を加えて欲しい。
八幡委員	理想としては、上から降りる部分と下からボトムアップでつないでいくという循環が有効に組み合わせられると良いと思う。今の方法論は、上の理念的なところから降ろしており、その時に、ある程度下の細かいところまで見通しを持って確定できれば良いが、なかなか難しい。次回が下のところ（具体的な取組）の検討になると思うので、それを詰めた段階で、上の理念が下と齟齬がないかというような見直しをもう一度行おうと思う。
萱野委員	6ページの(4)今後の方向性について、1つ目に「市民が生涯学習に取り組んでいる実態が確認できたため」とあるが、「実態」と言うと、取り組んでいる形態や取り組み方という風にも受け取れるため、誤解を生むのではないかと思った。 9ページの冒頭で、「本市が目指す生涯学習の姿は」とあるが、最後が「持続可能な社会になります。」となっており、主語と述語が合っていないように思う。 11ページの基本施策2の冒頭に「社会教育が大きく変化する昨今において、人生をとおして学び続けることが必要な時代になっています。」とあるが、そのつ

発言者	発言要旨
	ながりが少し理解しにくい。「人生 100 年時代の中で、人生をとおして学び続けることが必要な時代になった」というとスッと入ってくる。
八幡委員	基本理念について、学び続けた結果に豊かな人生や幸福があり、持続可能な社会というのがあると思うが、生涯学習ということであれば、学び続けることの楽しさを大事にしても良いと思う。例えば、「市民一人ひとりが生涯にわたって（生き生きと）学び続けられる社会の実現」などの理念はどうか。 別紙 3 の教育振興基本計画（概要版）の 1 ページに、「人生 100 年時代に複線化する生涯にわたって学び続ける学習者」とあるが、これを具現化するものは、おそらく生涯学習という理念だと思う。そのため、8 ページの生涯学習のイメージ図の中心にあるのは学習者一人ひとりであるべきだと思う。市政として行うのであれば、学び続ける市民（学習者）が生涯にわたって楽しく生き生きと学び続けるために、いろいろな環境を整備していくことが生涯学習に関わる行政の役割であり、この計画であるという理念の方が良いのではないかと思った。 基本理念の「学びと活動の循環」というのは、学んだ成果をいろいろなところに生かせる、そういう活動につなぐという意味だと思うが、「活動」というのが少し分かりにくいのではないかと思った。そのため、「学びと社会参加をつなぐ」というような文言の方が分かりやすいのではないか。 前回お尋ねしていたサブタイトルも含めて、委員の皆様よりご意見をいただきたい。
事務局	ここで、本日欠席の原委員からいただいた意見を紹介 ○市民アンケートの結果について ・アンケートの手法に不慣れな方（65 歳以上）の回答が少ない反面、15 歳～64 歳までの意向を垣間見ることができたのではないか。 ・設問によってはクロス分析することにより、より詳細な実態が分かるのではないか。 ・問 5 参加していない理由で、「日時が合わない」「イベントがあることを知らなかった」「興味あるイベントがなかった」という回答は全庁的に共有し、今後の生涯学習の広報手段等検討を図っていただきたい。 ○第 2 次熊本市生涯学習推進計画の（1～3 章）について ・「サブタイトルの例」 9 ページの 2 本市が目指す生涯学習の姿を象徴するようなメッセージ性のあるものが良いのではないか。思いつくままに提案すると、 「新たなチャレンジ！ 学ぶ楽しさ！ 広がる仲間！」 ・1 ページの「社会の変化に合わせるように見直し」は、「社会の変化を踏まえて（に対応するため）見直し」ではないか。 ・同じく 1 ページの下から 2 行目「必要な事項をまとめた」は削除し、実現に向けた「第 2 次熊本市・・・」としてはどうか。
貴田委員	サブタイトルの例は日比野さんの言葉なのか。

発言者	発言要旨
事務局	そのとおり。
貴田委員	学び自体が楽しいということが非常に大事だと思う。そこで、サブタイトルの案として「学びを楽しみ、幸せな人生を」等はどうか。
林田委員	我々がサブタイトルを付けると、分かりやすそうな、似たような言葉を綴ると思うが、今書いてあるサブタイトルの例はありきたりではなく、もしかしたら何度も繰り返し言っていれば、そのうち味がでるのではないかと思った。
八幡委員	私が考えたサブタイトルの例は、行政側だと「人生 100 年、学び続ける種をまく」で、市民寄りにすると「人生 100 年、学び続ける、生き生きと」である。
事務局	日比野文化顧問からも、本屋さんで目に付き、気軽に手に取ってもらえるようなものが良いのではないかと意見をいただいた。そこで、例えばサブタイトルを前面に出したり、表紙を生涯学習というものがより分かりやすくなるようなイラストにしたりするなど、手に取りやすいという視点で、表紙のデザインから考えていきたいと思っている。
中川委員	あまり生涯学習にこだわらず、これをしたら役に立つなど、生活に近い方が良いのではないか。
八幡委員	基本施策について、施策 1 は学習環境や内容の充実を目指す施策で、生涯にわたって生き生きと学び続けられる学習環境や内容の充実に関するもの、施策 2 は「生涯学習とつながる社会参加の機会の充実」などの文言の方が良いのではないかと思う。 12 ページの施策の体系図について、取組内容として挙がっている項目で本当に網羅されているのか疑問に思った。例えば、施策 1 の③については、美術館や公民館、文化施設等をこの項目に入れるのか、また、外国の方の人口が増えてきており、そのような方たちの生涯学習の推進というキーワードを⑩に入れなくてよいのか、さらには、施策 2 の②には、リスキリングやリカレント教育と社会参加を促す仕組みづくりなど、行政が果たす役割が明示されると良いのではないかと思った。 別紙 3 の教育振興基本計画（概要版）の 2 ページ目の 6 番に書かれている内容は、市民教育としてぜひ取り組むべき内容だと思う。熊本市民全体に対して、どのような教育を提供していくかという項目立てが、具体的な内容に降ろしたときに見えるような形になると良いと思う。8 番が生涯学習に関する教育政策ということではあるが、生涯学習と社会的な学習は重なる部分もあると思うため、それをどう生涯学習という視点で体系的・網羅的にこの計画で示されるかということも、次の取組に向けて目配りしてもらえるとありがたい。
【議事(3)】	取組内容の具体例について 事務局説明
萱野委員	具体例の詳細を見てみると、外部のいろいろな関係機関（NPO や民間）との関連について書いてある。素案の前半部分でも関係機関との連携ということについて触れていたため、見せ方として、担当課の横に関係機関を書いた

発言者	発言要旨
	方が、行政だけでやっているのではないというイメージがしやすいのではないかと思う。
中川委員	取組内容④のスポーツに関しては、2つだけでは少ない。 スポーツでは、個人がウォーキングするのは地域スポーツとは言わず、ある場所で同じ目的を持って一緒に活動することによって、地域のスポーツという形になる。生涯学習の中で、協調的な内容を含んだものは何かあるのか。 基本施策1は効果を実感できる学習機会の提供となっているが、市民がひとつの場所で実感できるというのは何か考えられるのか。 ポイントで言われて、協議会をすれば実感できるという話ではなく、それは支援組織であって、それが目的ではない。目的としての活動というのは何か考えられるのか。
事務局	生涯学習の機会を提供するに当たっては、環境の整備と学習内容の充実の2つが必要だと思い、取組内容としてはその2つに分けて考えている。
中川委員	そこにつながっていくものが考え出せると、もう少し生涯学習というのが具体的な内容に近づくのではないかと思う。スポーツで言えば、大会は同じ場所で同じようなことをやって、自分たちがやってきたことを競って結果を出していく。 または、それによっていろいろな学びをしていく。それが次のステップにつながっていくという循環がある。生涯学習もそのような具体的な場があって、そこにみんなが参加できるというものが何か考えられないかと思った。
八幡委員	中川委員は生涯スポーツ福祉課程を率いていらっしゃったので、生涯スポーツという考え方や内容については第一人者だと思う。そのため、どのように生涯にわたってスポーツと関わり続けるということを捉えたら良いのか、ご教授いただけるとありがたい。
中川委員	スポーツでやってきた内容を生涯学習という形に置き換えていけると良いと思っている。スポーツは事実としてやっている部分だが、生涯学習もそのような機会がみんなに提供できて、みんなが学んだものからひとつのことをやれるという場が出てくると、もう少し具体性が出てくるのではないかと思った。
事務局	別紙5に書いてある取組は、市役所の関係課がやっている取組になるため、中川委員がおっしゃった生涯学習に置き換えてという部分については、どの課が具体的に施策としてやるのか検討が必要。今は市役所の関係課が予算を取ってやっている事業を一覧にしており、あとは見せ方だと思っているため、委員の皆様にご相談させていただきながら作っていきたいと思う。
八幡委員	いろいろな部署がやっている生涯学習に関する取組が集約された状態だと思うため、それを全体的な項目立ての中でうまく整理をしていただく作業をお願いすることになるかと思う。
貴田委員	具体例をリスト化されているが、図のような形で、ビジュアルで見えるマップのような見え方のものを作ってはどうか。
八幡委員	貴田委員、作っていただくことは可能か。

発言者	発言要旨
貴田委員	そのまま採用になるかは分からないが、たたき的なものは作れる。
事務局	別紙４の後に別紙５が続くようなイメージだが、事務局としても、別紙５をそのまま載せるのではなく、もう少しデザインして分かりやすくする必要があると思っている。そのため、アイディアがあればぜひお願いしたい。
松永委員	別紙５にある具体例は、今取り組んでいる内容がほぼ整理されているという捉え方で良いのか。
事務局	今やっている取組及び今後やろうとしている取組を記載している。
松永委員	コロナがあって少し状況が変わっているため、本当にこのまま続くのかと疑問に思う取組がある。例えば、９ページの学びたいむについて、実際学校では時間が取れない等の理由で、取組自体がなかなか難しい状況である。指導課が今後形を変えてやっていくのかもしれないが、この一覧は、関係課が今やっていることを整理していくものなのか、それとも他にもいい案があったら載せていくのか疑問に思った。関係課が出してきたものを整理して載せていくということか。
事務局	基本的にはそうなる。
八幡委員	現行の生涯学習推進計画をイメージしておけば良いのか。
事務局	表現の仕方は変えたいと思っている。現行の計画では具体例として項目だけを出しているが、その辺りを修正し、もう少しこの計画でどのような取組をやっていきたいかが分かるような形にしたい。 また、この計画は完成して終わりというものではなく、進行形でずっと継続していくようなものであるため、８年間の中で随時、関係課の事業を追加し、進捗管理をしていく。
八幡委員	学ぶべき内容も時代が変わると新しいテーマが出てくると思うので、そのようなことにも臨機応変に対応できるような体制を取っていただくのも必要だと思った。
中川委員	関係課が出してきたものをそのまま整理して出すというのであれば、この計画はいらないのではないかと思う。ここをアレンジして、新しい取組を関係課にやってもらわないと、計画作りにはならないと思う。今ある取組に前半部分を合わせてやっていくというのは納得できないのではないかと思う。オリジナリティがどのように生かされるかというところが、この計画の一番のポイントではないかと思う。
事務局	現行の計画から取組のデザインを変えようと思っているが、その中で、関係課が現在やっている取組だけを示すのではなく、今後必要な取組等について表現が必要だと思っている。例えば、課題としてこのような取組が必要であるとか、このような取組が足りていないなど、表現の仕方は今後検討していきたい。
萱野委員	検証指標アについて、生涯学習によって人がつくられるということを測る指標であれば、シンプルに「生涯学習が自らの向上に役立ったと思う市民の割合」などにしても良いのではないか。

発言者	発言要旨
	生涯学習が豊かな人生につながるということが最終目標であれば、この上に、「生涯学習により人生が豊かになったと感じる市民の割合」というのが一番しっくりくると思った。ただ、令和元年度を基準値とするのであれば、その時点で総合計画にそのような質問がなければ、新たに設定することは難しいのか。
八幡委員	生涯学習がすぐに豊かさや幸福につながるかを測ることが難しいという意見が第1回でも出されていたかと思う。
松永委員	取組の具体例を見てみると、学校にも役立つ取組もあるため、そのようなところが計画段階で見えると良いと思った。計画で終わるのではなく、放課後児童などの問題についても、いろいろな課が関わった取組になると生きてくると思う。単独でやっていくとそこで止まってしまうが、連携ができると生涯学習につながるのではないかと思う。 例えば、私の学校では、公民館と連携をしており、去年は琴の先生と尺八の先生を学校に招いた。自分たちだけではなかなかそのような先生とつながれないが、公民館から教えていただくことで招くことができた。公民館から情報をもらうことで、子どもたちの学びの場が広がるだけでなく、そのような経験が生涯学習につながると思った。 各課がそれぞれ単独でやるのではなく、先ほどマップの話もあったが、項目で整理すると活用したくなると思った。
八幡委員	アンケートでも生涯学習の情報が届いていないという回答があったが、どのような届け方、見せ方をしていくのかを工夫する必要があると思った。
林田委員	取組内容の具体例について、これは今現在やっていることであって、これを計画だと言い切ってしまうのは無理があると思う。今やっている取組の課題を書き、その課題を克服していったり、取組を有機的に結びつけていったりというようなつながりを作っていくと、計画と言えるのではないか。やはり、現状の課題を克服するためにはどうしたら良いか、というところがあっても良いと思う。
八幡委員	今の熊本市の生涯学習に関する取組の課題について、どのように捉えているのか状況を聞きたい。
事務局	多くの人に届けるということが課題だと思っている。アンケートでも、イベントや講座があることを知らなかったという回答を多くいただいているため、いろいろな方に情報を届けていくことが重要だと考えている。
八幡委員	委員の皆様が考えている課題はどのようなことか。
中川委員	私は2軸で考えている。1つは、ライフステージごとにどのような課題がどこにあるのか、どのような学びが必要なのか。もう1つは、地域づくりに必要な要因は何か、どの年代で何が必要かということをきちんと配置できるという具体性を生涯学習課で作っておかないと、現状の課題の考え方と、生涯学習にとっての課題の考えが一致する場合としない場合がある。 あまりにも現実を直視すると、私たちがすべき内容から外れてしまうということもある。どこを軸にして何を見ていくか、例えば、保育園ではどのような学びが

発言者	発言要旨
	必要なのかという具体的な部分をおさえていかないと、具体的な内容としてそれをトータルで行ったときに、豊かな人生の説明ができないのではないかなと思う。 何を軸に課題を考えていくかを検討していただくと、もう少し分かりやすい課題になると思う。 例えば、高齢者にとっての地域づくりに対する学びや職業という形で言うと、どういう課題が残ってくるかが分かりやすいと思う。100年と言いつつ、100年後をどう捉えて、それに対して学びをどういう形で提供していくかというのがなかなか見えてこない。そこをきちんと作っていくこと、また、一度にできる訳ではないため、それを変えながら充実していくという仕組みをしていかないと、積み上げができていかない。 前回やったのと今回やったのが違うという積み上げではなく、前回やった内容を変えていくことによって、さらにステップアップできるという仕組みにしないと、見直しにならない。ただA案をやって、次はB案をやって、C案をやっていくというのでは、せっかくやっている内容が積み上げられてこないのではないかなと思う。そのため、事業と理念との間を時間をかけて考えていく必要がある。おそらく一度にはできない話だと思うが、そのような方針でやっていくと、もう少しつながるのではないかなと思う。
八幡委員	生涯を網羅する形で、穴場がないか、課題はないか、今ひとつ現状を点検してみるところから始めても良いのではないかなというご提案だったかなと思う。
勝谷委員	今、社会はとても変化しており、昨年の同じ時期から1年間で外国の方が約1,500人増えている。また、8月から9月にかけて、台湾関係で熊本市内では1,000人規模ぐらいで転入してくるという想定がある。そのような中、今後の社会というものを見たときに、もう少し国際的な視点というものが各課の取組やすべてのライフステージにおいて関係してくるということが考えられる。そのため、各課がやっている生涯学習の取組のアンケートということだけではなく、そのような視点で事業を考えているのか、計画を策定する中で、生涯学習課の方でこのような視点を持った事業というのがどうなのかなと思った。 他の課への助言というのは難しいとは思いますが、委員会でこのような意見が出たからということの関係課にも言えるのではないかな。 既に、TSMCの絡みで外国の方が入ってきている。そのような方々が地域に在住して、地域の一員として生活していくという視点も持って、生涯学習という中に組み込んでいく必要があるのではないかな。日本人としての人口減少は進んでおり、そこを食い止めているのが外国人の転入者という状況を考えると、これは今後おそらく進んでいく。加えて、そのような外国の方にとっても住みよい地域の場にならない限り、人口が全体的に減っていくという全国的な状況というところも加味していただけると良いと思う。
八幡委員	グローバル化というのも生涯学習分野に限らず、熊本市が課題とすべきテーマかもしれない。ぜひそのような視点も取り入れていただきたいと思う。

発言者	発言要旨
事務局	ここで、本日欠席の原委員からいただいた意見を紹介 ○取組内容の具体例について ・2 ページ 取組内容④スポーツに対する環境の整備 1 又は 2 へ指定管理者として体育施設を管理運営している「熊本文化・スポーツ財団と連携」を追加 ・6 ページ 取組内容③ 文化芸術の取組の推進 11 「蔚山市との文化交流事業」を「諸外国の都市との文化交流事業」に変更（特筆する必要性はないのでは） - 文化交流は相互理解を育むうえで重要、色々な諸外国との文化交流とすべきではないか。 ○追記していただきたい項目 ・6 ページ 取組内容③ 文化芸術の取組の推進 15 くまもと市文化協会の設立（文化政策課） - 地域文化の振興及び育成、継承を図り、各区文化協会との連携を深め本市の文化芸術の創造と発展に資することを目的に設置 16 くまもと大邦楽祭の開催（文化政策課） 「くまもと全国邦楽コンクール」と「くまもと子ども邦楽祭」の2部構成で、若手演奏家の発掘と邦楽への関心と親しむ機会として開催 ・7 ページ 取組内容⑩障がい者の生涯学習の推進 8 スペシャルオリンピック地区大会の開催 - 知的障がいのある人たちに日常的なスポーツ活動プログラムとその発表の場である競技会を提供し、彼らの自立と社会参加を目的に、毎年地区大会を開催している。 9 楽球（レクレーションボッチャ）甲子園の開催 - 夏季パラリンピックの正式種目で、障がいのある人が参加する「チャレンジの部」と障がいのある人となない人が一緒に参加する「ユニファイドの部」を毎年開催し、子どもから高齢者まで誰でも気軽に楽しめるスポーツ大会。
加藤委員	完成した計画はどこで誰に配るのか。今まで一般市民までは配っていなかったのではないかと思います。あまり表紙にお金をかけなくても良いのではないかと思います。表紙からこだわってみんなが手に取るようにということだが、どのような人に見てもらおうことを考えているのか。
事務局	配り先は、市の関係課や公民館、民間企業、学校、社会教育関係施設等を予定している。加えて、ホームページ等でデータを載せたいと思っている。また、概要版を印刷して配ろうと考えている。 表紙については、お金をかけようとは思っておらず、自前で作ろうと考えている。
	【閉会】